

# 医の道を すすむ!

親子トーク

## 医師という同じ志を持つ仲間の存在が モチベーションと成長につながった

母 昊樹には自分の人生を自由に歩んでほしいと思っていたから、一度も医師になってほしいと言ったことはなかったよね。どうして医師をめざそうと思ったの？

息子 やっぱり家の影響が大きいよ。お母さんを通して医師の大変さややりがいを見てきたからね。

## 良医になるための人間性が身に付き成長できる環境

母 私たちが川崎医科大学附属高校を知ったのは、お父さんが通っている知り合いの方に勧められたのがきっかけだったね。



息子 説明会に参加して、この高校なら頑張れると思った。全国で唯一の医科大学附属高校ということ、医科大学への進学率が9割以上という高さを知って、医師になる最短の道だと感じたんだ。

母 川崎医科大学への推薦入試制度があることは保護者にも大きなメリットだと感じたけど、実際に入学してみてどうだった？

息子 医師を目指すという同じ目標を持った

仲間と、高校から出会えたことが大きかった。医師になるための授業が充実しているし、先生に質問しやすいアットホームな環境も魅力だった。

母 先生との距離が近いし、生活面でも親身になってくださるから、遠方から送り出している保護者としてはとても安心だった。

息子 最初は不安だった寮生活も、いつの間にか不安を感じなくなった。みんな違う考えを持っているから、人を理解しようとする習慣が身に付いたと思う。

母 いろんな人との共同生活は成長につながるからね。そういえば、高校では生徒会長を務めたんだよね。人前で話をすることが得意じゃないと思っていたから、立候補したと先生から聞いて驚いた。

息子 中学でも生徒会に携わっていたから、高校では会長になろうと思って。特に体育祭の後に実施される後夜祭用に動画を作って上映したことは最高の思い出。生徒会では協調性とコミュニケーションの大切さを学べた。仲間のいろいろな面を理解して、話をよく聞くことを意識するようになった。

母 高校の頃からそういう考え方を身に付けられたことは、とても貴重な経験だね。昊樹は将来、どんな医師になりたいと思ってる？

息子 人間性豊かで患者さんに近い存在になりたい。附属高校には良医を目指すための「ドクターロード」という授業があって、医科大学の先生の授業や実習が受けられるし、最先端の医療現場も見学

できる。さまざまな活動を通して「人間(ひと)をつくる」という建学の理念が、良医にとって重要だと実感できたんだ。

母 それは医科大学の附属高校だからこそできる学びね。大学では勉強がさらに大変になるけれど、昊樹には勉強以外にも、いろいろなことに挑戦してほしいな。

息子 まずは大学の授業に慣れるように頑張らないとね。高校で鍛えた自己管理能力と忍耐力を活かして、大学では実践的な医学知識やスキルを学んで良医をめざしたい。余裕が出てきたら、何かにチャレンジしたいと思うよ。

母 医学は日進月歩だから、医師として学び続ける姿勢はとても大切。医師として、人間として、だれからも信頼されるようになることを願っているよ。



岡田医院

豊かな人間性を身に付け  
誰からも認められる良医に  
なるため学び続けたい

患者さんの気持ちに  
寄り添った医療を目指す  
医師になってほしい

(息子) 岡田 昊樹さん

2024年3月、川崎医科大学附属高校卒業。  
同年4月から川崎医科大学に進学。  
高校在学中は生徒会に所属し、生徒会長を務める。

(母) 岡田 裕美子さん

藤田保健衛生大学医学部卒業後、同大病院  
腎臓内科に入院。複数の病院の勤務医を経て、  
医療法人芳心会岡田医院に勤務。現理事長・院長。